

# 工業生産をささえる貿易と運輸 ー輸入の主役ー

## ー電子ボードを活用した授業の実践ー

千葉県市原市立清水谷小学校 教諭 山口陽子

キーワード：小学校，5年生，社会，デジタル掛図，電子ボード

### 1. 実践授業の概要

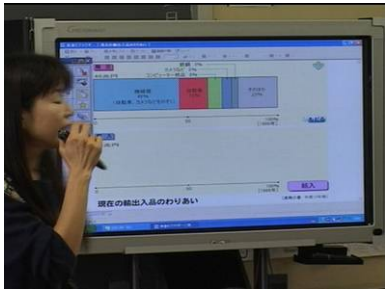

#### 1.1 ねらい

日本の輸入品のおもな品目を調べ，その特色をつかむとともに，変化の意味に気づくことが出来る。

#### 1.2 授業で活用したコンテンツ及び機器について

- ・東京書籍株式会社 「新しい社会デジタル掛図 5年」
- ・パイオニア株式会社 プラズマ電子情報ボード

#### 1.3 学習活動と内容

学習の流れ	電子情報ボードの活用
<p>日本が輸入しているものは，おもにどんなものなのだろうか。</p> <p>①前時の「輸出の主役」の学習を想起し，日本の輸出品の割合から，輸入品について，予想を立て，話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・機械類や自動車が輸出品の主役だから，鉄鉱石等の原料が中心だと思う。</li><li>・日本の貿易は，加工貿易が中心だから，原料の輸入の割合が高いだろう。</li></ul> <p>②日本の輸入品について，調べたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鉄鉱石や石油の原料や燃料，そして小麦や大豆などの食料品等は輸入にほとんどたよっている。</li><li>・輸入額の割合で見ると，予想とは違って機械類がいちばん多い。</li><li>・機械類は，輸出額が一番だけど，輸入額もいちばんだ。</li><li>・グラフを見ると，製品輸入の割合が大きくなってきている。</li><li>・日本の会社の電気製品もたくさん輸入されている。</li></ul> <p>③近年，急速に製品の輸入が増加した理由を話し合っ，まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外国のほうが働く人の賃金が安いので，製品も安く作れる。</li><li>・外国に日本の工場を作ると，働き場所が増えて，その国の人も喜ぶ。</li><li>・よい外国製品を，買いたい人が増えた。</li></ul> <p>④次時の学習を知る。</p>	<p>○「現在の輸出品のわりあい」の帯グラフを提示する。</p>  <p>○「現在の輸入品のわりあい」の帯グラフを提示する。</p> <p>○「おもな輸入品と輸入先」の掛図を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・電子ペンで主な輸入品を囲んだり，着目点などを矢印で示したりする。</li></ul>  <p>○「世界地図」を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・貿易相手国を電子ペンで囲む。</li></ul>

## 2. 実践でわかったこと

### 2. 1 IT 活用の効果

今回の授業で活用した「新しい社会デジタル掛図 5年」では、教科書紙面に掲載されている帯グラフや折れ線グラフが動いて、表示される。また、教科書では見えにくい写真を大きく見ることができたり、写真に電子ペンで印を付けたりすることができる。こういったコンテンツに児童は大変熱中し、本時後の児童の感想の中にも、上記のような動きのあるコンテンツがおもしろく、夢中になったという意見が多数あった。

それ以外では、電子情報ボードを使って授業を進めると、とてもわかりやすくおもしろい、電子ペンが使いやすい、社会が好きになったなどの意見があった。

「新しい社会デジタル掛図 5年」は、グラフに動きがあり、カラーでもあるので、子どもの目を引いた。興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができた。

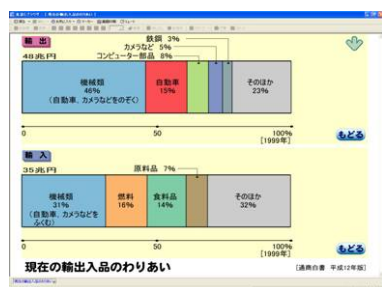


図1 グラフの様子

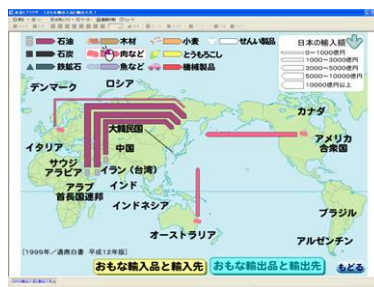


図2 輸入先の図

### 2. 2 電子情報ボードを活用してみよう

電子情報ボードの活用には、むやみに開くのではなく、ポイントを絞るようにした。また、与えられる学習場面だけでなく、子供自身もボードに参加する作業場面を設定した。用紙に書いた資料と、ボードの資料とを目的に応じて使い分けをするようにした。

以前に学習した内容も即座に振り返ることができた。これは、輸入の品目の際に食糧問題のことが話題に上った。そこで、4月に学習した食料自給率の話をしたところ、反応が薄かったのですがすぐに当時提示した掛図を開き、確認をとることができた。



図3 子供が参加している様子1



図4 子供が参加している様子2

### 2. 3 成果と課題

#### (1) 成果

電子情報ボードは、より意欲的に関心を持って望むので、子どもが創る授業によい。本単元は、今までの学習を想起させながら、日常生活の中から考える手だてを探らせていくことが大切であり、その場面、場面でより充実した話し合いをするために、必要とする資料をすぐ提示できるデジタル掛図は効果的であった。

#### (2) 課題

「新しい社会デジタル掛図」では、円グラフや帯グラフなどが順序良く提示されていくのはよいが、途中で止めることができない。また、教科書の写真・グラフ等がそのまま電子情報ボードに提示することができるので良い時もあるが、別の視点・角度からのものがあったとしても良いのではないだろうか。

画面から音声が出てくることは良いが、子どもたちの立場からすると速いように感じる。メモを取りづらかったようだ。また、音声も途中で止められるとよい。写真によっては見えにくいもの、拡大するとぼやけて見えるようなものがあった。また、教室の採光によって画面が見えにくいこともあった。